

学会だより

(1) 岡山大学教育学部は、1999年4月1日付けで改組されました。従来の専修・専攻制度の廃止に伴い、学生の数学研究室は廃止され、教官の数学教室も廃止される予定です。

新しい教育学部の組織は、学校教育教員養成課程(170名)、養護教諭養成課程(30名)、総合教育課程(80名)の3課程制です。学生定員は、従来の380名から280名に減少します。これは将来の教員の需給見通しに基づく定員設定です。

入学試験は、学校教育教員養成課程、養護教諭養成課程、総合教育課程の生涯教育コース(35名)、教育臨床コース(15名)、教育情報コース(30名)の5つの単位で行われます。

学校教育教員養成課程の学生は、2年次の初頭に小学校教育専攻(120名)、中学校教育専攻(30名)、障害児教育専攻(10名)、幼児教育専攻(10名)に分けられます。この定員設定も将来の教員の需給見通しに基づく定員設定です。生涯教育コースの学生も、2年次の初頭に生涯学習基礎分野、生涯スポーツ教育分野、生涯芸術教育分野に分けられます。

全ての学生は、3年次の初頭に卒業論文指導教官を決定することになります。学生は、所属する課程・専攻・コースに関係なく、教育学部の全教官の中から卒業論文指導教官を選ぶことが出来ます。もっとも、各教官は一定の条件の下で受け入れ可能人数を設定することが出来ます。

(2) 岡山大学は、1999年10月に開学50周年を迎えますが、その記念行事・式典は5月末に行われます。

(3) 教育学部関係の人事異動についてご報告いたします。本年4月1日付をもって、教育学部附属教育実践総合センターの黒崎東洋郎先生(昭和49年卒)は助教授にご昇任なさいました。また、杉能道明先生(平成元年卒)は、邑久町立邑久小学校から教育学部附属小学校にご着任なさいました。

(4) 一昨年度発足した「算数学力診断調査会」に続き、昨年度は「中学校数学学力診断調査会」も発足し、両調査会は、平成14年に岡山県で開催される中・四国数学教育研究大会に向けて、鋭意研究調査を行っております。それらの調査結果及び中間報告は、本学会誌に掲載されています。本年度は更に、「オープンアプローチ研究会」と「CAI研究会」とが発足し、研究を始めます。これらの調査会・研究会のメンバーとして、調査・研究を行いたい会員は、会長まで申し出てください。また、これらの他に研究会等を結成したい場合は会長まで申し出てください。

(5) 岡山県教育センターの金光一雄先生(昭和55年卒)は、研究課題『学校・家庭・地域社会の連携・協力の下、生きる力を育む教育の推進に資する研究』で科学研究費奨励研究(B)を、教育学部附属中学校の川上公一先生(昭和53年卒)は、研究課題『数学の視点を生かした中学校数学科学習の創造』で、同様に科学研究費奨励研究(B)をもらいました。教育学部附属中学校数学科は、松下視聴覚教育研究財団から、第25回視聴覚教育研究助成を受け、『インターネットの特性を生かした中学校数学科学習の創造』について研究を進めています。また、本学会の「算数学力診断調査会」は、研究題目『「生きる力」の育成をめざす算数授業の創造』で福武教育振興財団から助成を受けて研究を行い、前述のように本学会誌にその成果を発表するとともに、授

業改善に向けて更なる研究を続行しています。

(6) 第6回談話会を平成10年10月24日(土)に、「『新学習指導要領』に伴う算数・数学の授業のあり方について」をテーマに行いました。ご講演は、岡山県立新見高等学校の渡辺哲夫先生(昭和47年卒)、岡山県教育センターの金光一雄先生(昭和55年卒)、教育学部附属教育実践総合センターの黒崎東洋郎先生(昭和49年卒)でした。詳しくは後出の報告をご覧ください。

(7) 次の11名の方々が本学会に新しくご入会なさいました。敬称は省略させていただきます。難波邦彦(昭和57年卒)、山田裕司(大学院生)、上田伸哉(大学院生)、岡野 岳(大学院生)、栗栖昭五(大学院生)、坂本弥生(大学院生)、桐野彰子(平成9年卒)、梅垣昌稔(4年生)、泰中三郎(4年生)、上田恵子(4年生)、三成 智(4年生)。

(8) 本学会会則第4条に『その他、本学会の目的を達成するために必要と認められる事業』を行うことが謳われています。その事業の一環として次の書籍を発行しました。

『生きる力を育てる算数の学習指導』、高橋敏雄、片山英雄、平岡弘正、黒崎東洋郎著、
1999年4月1日発行。

第6回談話会について

第6回談話会を平成10年10月24日(土)に、岡山大学教育学部の講義棟1階5101号教室で行いました。今回は「『新指導要領』に伴う算数・数学の授業のあり方について」をテーマに、岡山県立新見高等学校の渡辺哲夫先生、岡山大学教育学部の黒崎東洋郎先生、岡山県教育センターの金光一雄先生による講演及び質疑応答を行ないました。

平成10年12月、平成11年3月に告示される予定の『新指導要領』について、それぞれの先生方の持っておられる情報をもとに、それによって具体的に授業がどのようにあるべきかをわかりやすくご説明いただきました。

以下、渡辺哲夫先生、黒崎東洋郎先生、金光一雄先生の3人の先生方の講演及び質疑応答等について簡単にご報告いたします。



◆ 渡辺哲夫先生（新見高等学校）

○ 高等学校数学について

- ・ 現行の教育課程の内容
- ・ 推測される新教育課程の内容
- ・ 資料（教育課程審議会審議のまとめ、標準単位数、審議会会長の談話、単位一覧表）

をもとに、新教育課程ではどの内容が、どこに行くのかを対応表等を使ったり、黒板に図示したりして説明をしていただきました。



◆ 黒崎東洋郎先生（岡山大学教育学部）

- 小学校算数について
（新指導要領の動向と新しい算数授業のあり方）

- ・新指導要領の動向
 - ・新指導要領の改訂の概要
 - ・新指導要領によって、算数科の学力低下を招くのか
 - ・「算数の授業」の質的転換
- という4つの題名で、具体的な授業例を挙げながら、それぞれの内容についてわかっていること、推測できること、考えられること等を紹介、発表していただきました。



◆ 金光一雄先生（県教育センター）

- 中学校数学について
- ・中学校教育課程の基準の改善の基本的な考え方
 - ・中学校数学科における主な変更点
 - ・選択教科
 - ・学力のとらえ方
- を題名として、得られている情報等から、具体的に中学校数学科の内容の削除・移動・軽減・増加について等をお話いただきました。



（幹事 大月 一泰，平野 圭一）